平成９年６月18日
気象庁予報部

配信資料に関する技術情報（気象編）第２２号

－台風７２時間進路予報業務の実施について－

平成９年７月１日から台風72時間進路予報（以下、「72時間予報」と略します）を開始します。これに伴って、気象庁から発表する台風に関する情報とその提供形態等の改善を行います。

１　台風７２時間進路予報業務の実施概要

(1) 業務開始日時

平成9年7月1日９時（中央標準時）観測分から各種情報で発表します。

(2) 予報の実施時刻

72時間予報は、１日４回、従来の48時間予報と同じ03時、09時、15時、21時観測分について実施します。この間の00時、06時、12時、18時観測分については、従来どおり24時間予報を行います。

(3) 対象とするじょう乱

72時間予報の対象とするじょう乱は、全般海上予報区内に存在する台風、および24時間以内に予報円または暴風警戒域が全般海上予報区内に入ると予想される熱帯低気圧（最大風速34ノット以上）とします。

(4) 予報の表示方法

48時間までの予報は、これまでと同様、予報円の中心位置（緯度経度と地域名）、予報円半径及び暴風警戒域半径を示す方法で行います。

72時間予報は、予報円を表示すると、防災上もっとも重要な12～48時間予報が見づらくなること、また予報円がかなり大きくなることがあるため、一般の方に台風が発達するかのような誤解や混乱を与えるおそれがあります。そこで、気象庁から発表する一般向けの図情報では従来どおり48時間予報までの表示とし、72時間先の予想位置などは概略の地域名（例えば沖縄の南、西日本など））で示すこととします。

各情報の配信等は「３　台風に関する情報について」で詳しく説明します。

２　その他の変更事項

(1) 予報円に入る確率

昨年の実際の台風予報について検証を行った結果、予報円の確率を70％にあげても従来より大きな予報円にはならないことが確認できましたので、台風の中心が予

報円内に入る確率を60％から70％とし、各種情報で明記します。

(2) 予報位置の緯度経度表示単位

12, 24時間先の予報位置の発表はこれまで緯度経度の0.5度単位で示していましたが、進路予報の精度が向上しましたので、今後は0.1度単位とします。

3　台風に関する情報について

(1)　**（財）気象業務支援センターから提供する情報について**

①「**ゼンコクタイフウ２１**」（かな漢字電文）

これまでは、この情報は台風の中心が日本の沿岸から概ね300km以内に接近した場合、観測時刻後50分をめどに発表していました。

しかし、この条件では72時間予報で台風が日本に影響すると予想されても、この情報を発表しない場合がありますので、今後は、72時間予報で台風が日本に影響すると予想される時点から、観測時刻後70から90分をめどに、この情報を発表します。

なお、台風接近時はこれまでどおり観測時刻後50分をめどに発表します。

②「**ゼンコクタイフウ１１**」（かな漢字電文）

この情報は、台風の影響で、大雨、暴風、高波、高潮等がどのような規模になり、防災上どのような備えをすべきか、など警戒事項が中心ですが、上陸、通過等の情報も扱います。

原則として72時間予報により、具体的な防災上の警戒事項等を示すことはありませんが、週末等に台風の接近が予想され、このことを広く周知する必要があると判断した場合に、一日に１～２回発表します。この場合の内容は、「台風が接近し影響が懸念されるので、今後の台風情報に留意すること」などとなります。

③「**タイフウイチ**」（カナ電文）

この電文については、配信時刻に変更はありません。従来どおり48時間予報までを示した内容ですが、この電文で上陸や通過等の情報を扱うのをやめ、「**ゼンコクタイフウ１１**」のみでお知らせすることとします。この電文では、台風接近時は観測時刻後50分、その他の場合は70～90分後をめどに配信します。

なお、この電文は平成10年11月末に廃止の予定です。代替として、次項で説明する「台風解析・予報情報電文」を用いることにしていますので、計算機処理を行う対象電文の移行等、ご協力をお願いいたします。

④「**台風解析・予報情報電文（ＫＦＸＣ70～75）**」（Ａ／Ｎ電文）

この電文は、72時間予報を開始するにあたり、新たに配信を始めるものです。

この電文は、数字と識別記号を中心に構成されています。計算機処理を行う利用が主ですが、気象電文を解読できる利用者が見れば、内容が容易に理解できるように配慮しています。詳細は「配信資料に関する技術情報（気象編）　第14号」をご覧ください。

この電文には72時間予報も含め、「タイフウイチ」電文と同時刻に配信します。

なお、この電文は「タイフウイチ」電文に含まれていなかった、24時間予報の予想最大風速や24時間先の予報進行方向、速度等も含みます。

(2) **予警報一斉伝達装置（東京）から提供するＦＡＸ情報について**

①「**台風予報図**」

この図については、内容も配信時刻も変更ありません。48時間予報までを表示した図を、日本付近に影響が予想される台風について３時間ごとに、観測時刻後早い時は１時間、遅くとも１時間40分以内に配信するよう努めます。

②「**平成○年台風第□□号に関する台風情報　第△△号（位置）**」

この情報は、内容及び発表時刻とも（財）気象業務支援センターから配信される「**ゼンコクタイフウ２１**」（前項①）と同じです。

③「**平成○年台風第□□号に関する台風情報　第△△号**」

この情報は、内容及び発表時刻とも（財）気象業務支援センターから配信される「**ゼンコクタイフウ１１**」（前項②）と同じです。

(3) **船舶向けの情報等について**

①「**全般海上警報**」、「**Ｓａｆｅｔｙ ＮＥＴ台風速報**」、「**日本語ナブテックス台風情報**」

48時間予報の後に72時間予報を付加して配信します。

②「**地方海上予報警報**」

72時間予報を含みません。これまでどおり、予報には24時間予報まで、警報には48時間予報までを報じます。

③**ＪＭＨ放送による「72時間予報図（台風予報図：ＷＴＡＳ07）」**

これまでどおりの時刻に、48時間予報図（台風予報図：ＷＴＡＳ04）に替えて72時間予報図（台風予報図：ＷＴＡＳ07）を配信します。

４　台風情報の報道について

72時間予報は、船舶関係者等からの「運航計画等のために現在の48時間よりさらに長い期間の見通しを知りたい」という声や、防災関係者等からの「防災要員の確保の要否の判断のため72時間後の見通しを得たい」などの要望に応えるために実施することにしたものです。船舶関係者や防災関係者は、一般に、気象に関して高度な知識を持ち、台風予報の精度や表示される要素の意味についても正確な知識をもった専門家と言えますので、予報期間を延長したために予報円が大きくなった場合でも適切にその意味を読み取り、関係者への周知を図っていただけるものと考えています。

一方、放送等により一般国民向けに、72時間予報を従来の48時間予報と同様に提供した場合、次のような点が懸念されます。

(1) ＴＶ画面などの台風予報図に72時間予報までを表示すると、表示すべき範囲が広くなるため、防災上、最も注視してほしい12時間、24時間予報が見づらくなる。

また、予報円や暴風警戒域が12時間から72時間まで４個表示されることになり、直観的にいつの予報か判別しづらくなる。

(2) 現在の技術上の限界から、72時間予報の予報円がかなり大きくなることがあり、一般の方に台風が発達するかのような誤解や混乱を与えるおそれがある。

一般の方が具体的な対応をとるために**最も必要なのは12～48時間予報**と考えられますので、この期間の予報が正確に伝達されることが重要と考えます。

この点を十分ご配慮いただきますよう、お願いいたします。